

横田基地問題を考える会

ニュース NO. 10

連絡先 電話&FAX 0428-22-6273
ホームページ アドレス
yokota-peace.sunnyday.jp

東日本大震災

米軍の「トモダチ作戦」

自衛隊の救援活動と

横田基地

3月11日東日本大震災による観測史上最大の地震と津波、福島原発の重大事故で、犠牲となった方々に深い哀悼をお捧げするとともに、被災者のみなさまに心からお見舞い申し上げます。この地震から二日後に米軍は、被災地沖合の原子力空母「ロナルド・レーガン」や駆逐艦など、沖縄の海兵

隊などを投入、さらに4月5日までに原発事故への無人偵察機の使用やNBC兵器を専門とする特殊部隊の160人の派遣しましたが、現在、米軍はこれらの作戦をすべて終了させています。横田基地では米軍は、作戦司令部（JSF）を横田基地に「トモダチ作戦」と名付け、



海上自衛隊「ときわ」の艦上で、米軍ヘリコプターに非常食を積み込む海自隊員

(用語解説)

トモダチ作戦

3・11に発生した東日本大震災において、米軍が行った災害救助活動。日本政府による人命という。

自衛隊もチームを作って横田基地に常駐、防衛省の「共同運用調整所（BCAT）」も日米間の任務の割り振りや横田基地に派遣されています。

朝日新聞は「陸自幹部は、『これまでの演習はシナリオの上、実践でこれだけ大規模な調整所を設置したのは初めて、まさに日米合同で作戦を立案しているかの感がある』」とし、米軍と自衛隊が展開した救援活動は、マスコミ媒体をつかって大きく報道されました。

彼らの救援活動には、敬意を表すことはやぶさかではありませんが、これまでの米軍基地による被害が帳消しになるものではありません。しかし、この「作戦」は、

米軍がリードし、これを機に、自衛隊と米軍は過去が例のない大々的な共同作戦を展開して、その実績を突き付けながら、日米同盟を深化させて日米安保体制のさらなる強化を狙うものです。

学習会を！

私たち「横田基地問題を考える会」では、今回の震災で横田基地がどのように使われ現在はどうなっているのか、日米政府が成功と判断した救援活動を機に、今後は、どのような「共通の戦略目標」で沖縄・本土の米軍基地と自衛隊を変化させようとしているのか等の事実をよく調査し、学習会などを企画中です。

作戦司令部は横田基地におかれた。

4月5日までは、NBC兵器

(核兵器・生物兵器・化学兵器)

対策などを専門とする海兵隊の

特殊部隊（CBIRFシーハー

乙）160人が横田基地に到着。

4月6日までに、福島第一原

発の対応や復興支援に着手した

と伝えられている。(米政府は、

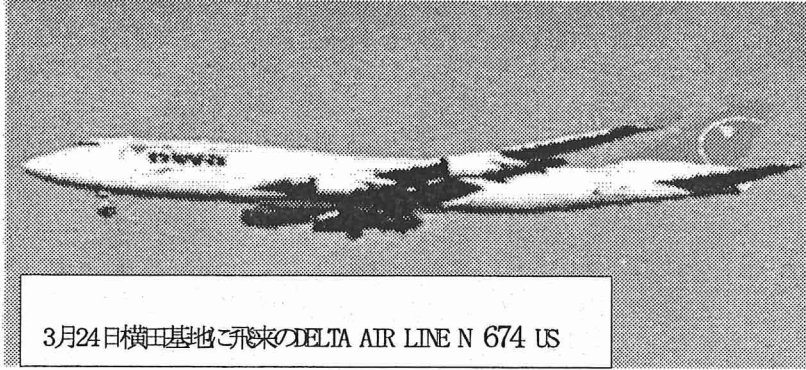
予算は68億円であると日本政府

府側に伝えた。)以上

東北大震災直後の横田の飛行状況

30余年前の深夜飛行の再現

昭島市と福生市の測定記録によれば、横田基地の東北大震災直後の夜間飛行は、夜22時から早朝5時までの米軍機と自衛隊機の飛行回数が急増して、30年以上



3月24日横田基地へ飛来のDELTA AIR LINE N 674 US

前の横田基地公害訴訟提訴時と同じ回数に達していたことがわかりました。

ただし、これは、基地滑走路の南北延長線下の地域に限られ、福生市役所屋上の夕刻午後7時から夜10時の飛行回数は逆に減っている。この時間帯によく行われていたC130ハークューリーズの訓練飛行が中止されていた。従って基地の西側と東側の住民の人たちには、このような変化はあまり感じられなかったようです。

なお、「横田基地の撤去を求める西多摩の会」によれば、震災直後の発着機の機種は、C130ハーキュリーズに加え、大型輸送機のC17や大型ヘリ、更にデルタ航空など大型民間機などが多く見られました。

これは、横田基地が、震災直後に、

①米太平洋軍の前線司令部と自衛隊の連絡チームの「統合支援部隊」の設置

②災害地への兵員・物資輸送

3月24日横田基地へ飛来のDELTA AIR LINE N 816 NW



③米兵・米軍家族の帰国輸送

の任務に提供されていたためです。

このように、日米合同委員会で定めている横田基地の夜間飛行規制が、いざ「有事」になれば、まったく無視されてしまうことが、明らかになりました。

3.11 震災直後の横田基地の深夜飛行

平成19年1月～平成23年3月の月間飛行回数【昭島市拝島2小 屋上測定】

	H 19年			H 20年			H 22年			H 23年			
	1月	2月	3月	1月	2月	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
原告らの差止請求時間帯 日米合意時間帯	21時～22時	71	28	33	42	14	28	21	11	40	3	10	13
	22時～23時	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	15
	23時～24時	0	3	0	0	1	0	2	2	0	0	1	9
	0時～1時	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	1時～2時	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	10
	2時～3時	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4
	3時～4時	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	4時～5時	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
	5時～6時	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	22時～6時小計	1	3	1	0	4	1	3	6	4	1	1	52
	6時～7時	7	14	17	12	1	6	7	9	15	20	8	22
	総合計	79	43	51	54	19	36	31	25	59	24	20	87

※この「22時～23時」から「5時～6時」までの合計回数は昭和52年と同じレベルの回数
(4月以降は近年の状況に拠っている。)

横田基地問題を考える会が

学習会(3月27日)

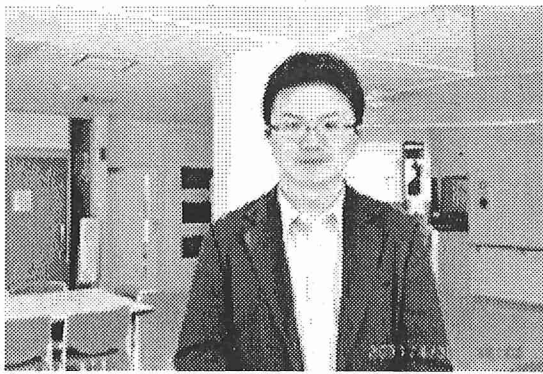
講演 「航空自衛隊横田基地の新設」

講師 近森拓亮さん

自衛隊横田基地はいつから計画されていたか

2003年アメリカ側から第5空軍司令部を横田基地からグアムの第13空軍司令部に統合する計画が発表されると、日本側は04年に

- ①米軍と自衛隊による横田基地の共用化
- ②第5空軍司令部を横田



基地に残す

と逆提案しました。

その後、05年から“米軍再編”が進められ、06年に

- ①日米共同統合運用調整所の使用開始

②“再編実施のロードマップ”で「2010年

度に自衛隊航空総隊司令部の横田移転」が決定

2010年8月の「2011年度防衛省概算要求」

から航空自衛隊横田基地の名前が使われています。

自衛隊横田基地の新設で日

米軍事一体化はさへ?

民主党内閣は2010年1

2月の新防衛大綱で自衛隊を更に自由に米軍と共同行動できる軍隊に変革することを決めました。

アメリカは中国などの相手国が米軍の「接近拒否・領域拒否」(寄せ付けない)体制に対抗するために米軍の海軍と空軍の統合戦・長

距離攻撃能力の増強などを目指しており、このため、日本にある米軍基地と自衛隊の役割に大いに強めようとしています。

防衛大綱の重点と自衛隊新

横田基地の役割

このアメリカの期待を受けた新防衛大綱では

- ①情報収集・警戒監視・偵察活動
- ②常時監視による情報優越の確保
- ③自体の展開に迅速に

じられる米軍との密着・緊密な体制

などが盛り込まれ、この結果今までの“再編協議”以上に、“日米同盟の深化”

に日米軍事一体化が打ち出されています。

横田基地でのミサイル防衛の役割の監視だけではなく、日米の動向全体、さらに日米の韓国やオーストラリアとの関係強化の動向にも注目していく必要があります。

(会員インタビュー) 中里 博文さん

自然エネルギーも捨てたものじゃない

私は立川市砂川の地で生まれ、育ちました。特に学校に通ったり、誰かに教わったりしないで、自分なりに自分を表現しようと考えて作品を創っています。

作品は金属を加工したり、溶接し、風や水などの自然エネルギーで動いたり、音を出したりする物を創っています。

私としては、電気に頼らず「自然エネルギーも捨てたものじゃない」と感じてもらえれば...と思っています。

日の出のゴミ処分場の運動にも参加し「現地に何か芸術作品を...」という意見があり、作品を創って設置しました。

公園とか、滝や水のある所で個展を開いて皆さんに見て頂き、買って頂きました。儲かるというわけではありませんが、何と食える程度です。

連休に東北に...

現在の一番の関心は福島原発です。無事に治まってくれば...と望んでいます。

5月の連休を使って、仙台・磐木に人形遣いの皆さんと行ってきました。昼間はボランティアをし、夜に条件があれば人形浄瑠璃の公演をしたいと希望しています。作品は「八百屋お七」「三番嫂」を考えています。

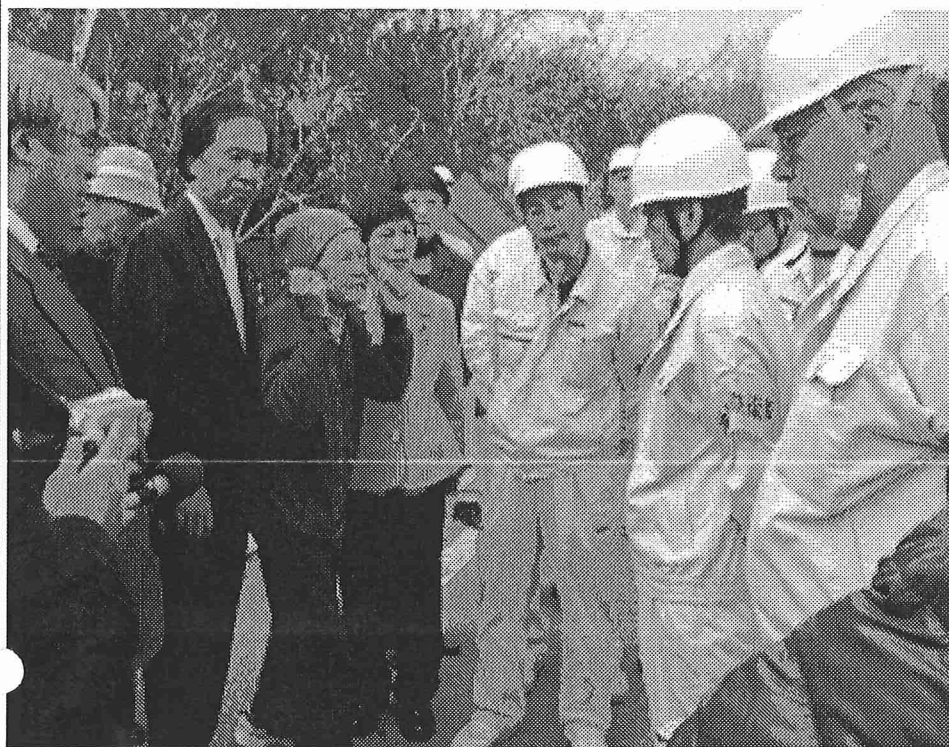
(写真はご自宅を背に中里さん)



〔寄稿〕
「闘う老婦人」

富久 亮輔

私は2月中、沖縄の高江で過ごしました。米軍の北部訓練所にヘリコプター離発着陸帯の建設を阻止する「住民の会」に連帯するためでした。



ある日の事です。沖縄防衛局（オキボと略します）は百人で押しかけて来ました。こちらは支援者や県会議員団を含め五十人くらいで、オキボが工事現場に入るのを阻止しました。オキボの現地指揮者の一人がマイクで「通しなさい。通さないと通行妨害で告訴しま

す」と脅してきました。支援者側から県議の一人がマイクを握り、「この不当な工事を中止して今すぐ帰りなさい」と応酬しました。オキボは「昨年9月の県議会決定に基づき工事をしている」と反撃しました。県議が「そのような決議は行っていない」と応酬しましたが明らかに事実無根だと解る屁理屈でオキボが再応酬しました。が、劣勢は目に見えてきました。オキボは責任者の平良次長がマイクを持ち県議に対抗しました。県議と次長の長くて激しい応酬が続きました。テントにいた小柄で痩身の老婦人が二人の横へ進み出て、平良次長に話しかけました。両の眼でしっかりと平良次長を見据え、しっかりと握った小さな拳の両手を上下に打ち振り、激することなく、凜とした声で平良次長に話しました。県議に対しては昂然と胸を張っていた平良次長の口は閉じられ、次第に頭が下がっていきました。そして老婦人

に何事かを言い、お辞儀をし、オキボの局員の方へ一言「撤収」と言って帰って行きました。この「浦添市新婦人の会」の老婦人と平良次長の会話は全て沖縄語で話されたので私には理解できませんでした。私はテントに座っていた「新婦人」の一人にどんな会話がなされたかを教えてもらいました。老婦人は「あんたもウチナンチュなら親から聞いたこともあるう。ヤマトの兵隊は沖縄を戦場にした。ウチナンチュは三人に一人が死んだ。私も戦争で親兄弟を皆殺された。ヤマトの兵隊は私たちを助け

てくれなかった。ヤマトの兵隊は私たちをガマから追い出した。もうあんな戦争はしちやあいかん。沖縄に基地を作っちゃあいかん。アメリカの兵隊は沖縄に居ちやあいかん。琉球人がヤマトとアメリカの戦争を手伝ってはいかん。戦争の手伝いをしたら、今度はあんたの子供が死ぬぞ、孫も死ぬぞ。」私に話してくれた「新婦人」はこう言いました。「私も九十を超えているさ。あと何年生きているかわからない。戦争が怖い事を若い者に伝えるさ、私の命の火が消える前に。」

市民交流集会お知らせ

とき 10月15日 (土)
ところ 福生市民会館
(大ホール)

記念講演 伊波 洋一さん
(前直野湾市長)

現在決まっているのは、以上です。
今後実行委員会を拡大強化して、
規模・内容を豊かにしていきます。

連絡先 拝島法律事務所
(電話) 042-539-5455
(FAX) 042-513-3375